

安全上の注意

- 取り付けの前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
 - ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすることで生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- 警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。**
- 注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。**
- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。
- 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
 - 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと。発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります。
- 交流 100V 以外では使用しないこと。発火・感電の原因になります。
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと。漏電した場合、発火するおそれがあります。
- 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的な資格者が工事をおこなうこと。火災などの原因になります。

- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的な資格者が工事をおこなうこと。誤った配線工事は感電や火災の原因になります。
- メタルス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けます。
- 漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります。
- 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと。火災などの原因になります。詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください。

- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラスタ網など）と接触しないよう取り付けます。漏電した場合、発火するおそれがあります。
- アースを確実に取り付けること。故障や漏電のときに感電するおそれがあります。アースの取り付けは販売店にご相談ください。
- 自然排気型のストープを使用するときは、空気の入口（給気口）に十分給気される配慮をします。排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）。感電および故障の原因になります。
- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと。落下によりけがをするおそれがあります。
- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けられないこと。火災・故障の原因になります。
- 部品の取り付けは確実におこなうこと。落下によりけがをするおそれがあります。
- 運転中は指や物を絶対に入れないこと。けがをするおそれがあります。
- 取り付けの際は必ず厚手の手袋をすること。鋼板の切り口や角だけが露出するおそれがあります。

取り付け上のお願ひ

- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的な資格者がおこなう必要があります。
 - ・大工工事【設置のための下地工事等】
 - ・配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクタ利用以外の配線接続等】
 - ・電気工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】
- 流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について
 - ・ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
 - ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は 400m²/h 時 50Pa 以下のものをご使用ください。防虫網付きのものは目詰まりして排気能力が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に曲がるダクトは排気効果をいじりやすく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- 本体やダクトなどが他の電気製品と接触しないよう取り付けてください。

- 壁取付の場合、レンジフード取付面の補強部に、取付用ねじが確実に届くことを確認してください。本体の取付用ねじは 45mm の長さのものと同梱されておりませんが、壁下地に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用ねじが確実に補強部に届くことを確認してください。また、レンジフード本体取付面には必ず不燃材を使用してください。
- 製品は調理機器の真上に取り付けしてください。なお、製品取付高さは、製品の下端が調理機器の真上 80cm 以上になるようにしてください。
- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けしないでください。また、横方向 50cm 以上離して取り付けしてください。湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。
- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けてください。火災・故障の原因になります。
- 電源コード等の各種コード類は、吊るなどして、レンジフード本体や排気ダクト等に接触しないようにしてください。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- 部屋の中央で調理される場合は油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm² 程度の空気取入口を設けてください。
- 寒い地域ではダクトが結露し本体内部に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。

取り付け前の調査と準備

壁取付の場合 天井取付の場合は裏面をご覧ください。

- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと。発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります。
- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラスタ網など）と接触しないよう取り付けます。漏電した場合、発火するおそれがあります。
- 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと。火災などの原因になります。詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください。
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと。漏電した場合、発火するおそれがあります。
- 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的な資格者が工事をおこなうこと。火災などの原因になります。

- 取り付けの際は必ず厚手の手袋をすること。鋼板の切り口や角だけが露出するおそれがあります。
- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けられないこと。火災・故障の原因になります。
- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと。落下によりけがをするおそれがあります。

1 取付面の強度確認
製品を支える強さが必要です。

製品質量	450 開口	14.0 kg
	600 開口	16.0 kg

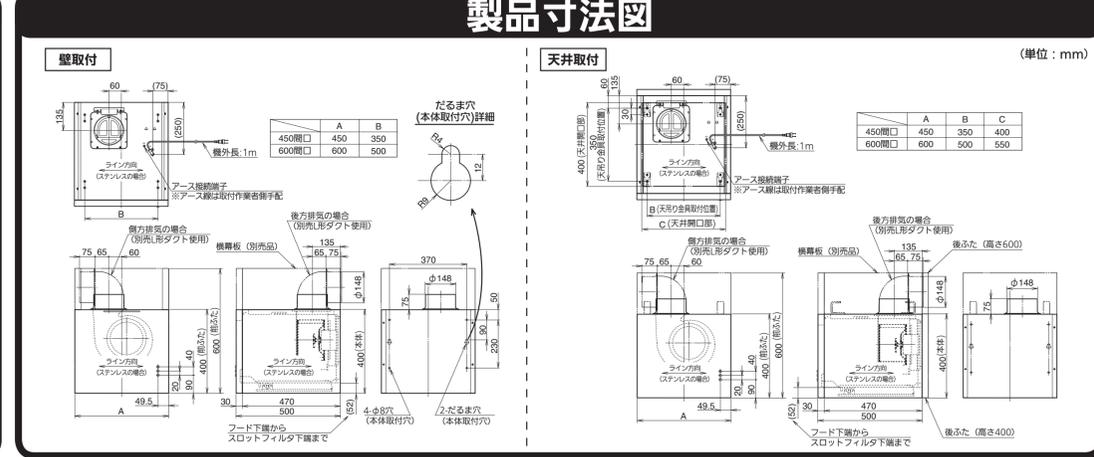
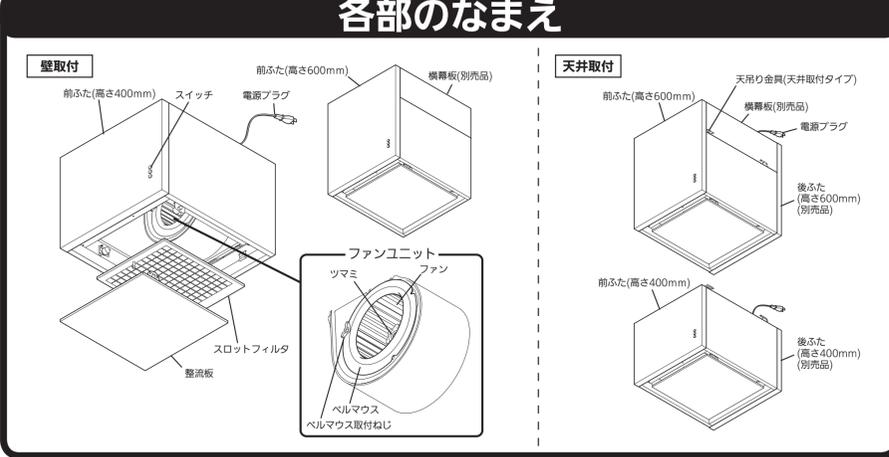
- 壁張りの場合（取付面は必ず不燃処理をおこなってください）
 - 板厚が 20mm 以下の場合には壁に補強板を埋め込み、補強板にレンジフードを取り付けてください。
 - 板厚が 20mm 以上の場合には補強板の必要はありません。
- コンクリート、タイル壁の場合
 - あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールプラグ等を使用し固定してください。
- 土壁の場合
 - 柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでください。

2 別売部品の準備
排気工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。

3 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面から製品の下端まで 80cm 以上です。
※ 火災予防条例では、グリッドフィルターの下端が調理機器の真上 80cm 以上必要となっています。

4 電源コンセント・ブレーカー
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相 100V）
コンセントは、JIS C 8303 2 極差込接続器 15A 125V をご使用ください。

お願ひ
必ずアース（D 種接地工事）をしてください。レンジフードが誤動作することがあります。



- ### 付属品
- 座付ねじ (φ 5.1 × 45) 6 本
本体の取り付けに使用します。
 - 取付ねじ (M4 × 10) 2 本
前ふたの取り付けに使用します。
 - ローレットねじ (M4 × 15) 2 本
前ふたの取り付けに使用します。
 - 排気口 1 個
本体とダクトの接続に使用します。逆風防止シャッター付きです。
 - ソフトテープ 1 本
排気口とダクトとのすまきをふさぐのに使用します。
 - 前ふた 1 枚
本体前面に取り付けます。

- ### 別売品
- L 型ダクト 1 個
後方・側方排気の場合に排気口と組み合わせて使用します。
 - 換気板 1 枚
取付ねじ (M4 × 10) 2 本
丸木ねじ 1 本
本体側面に取り付けます。
 - 天井取付用センターキット 1 組
本体正面の目隠しに使用します。天井取付の場合に必要となります。
 - キット内容 (H600 仕様)
 - ・換気板 2 枚
 - ・取付ねじ (M4 × 10) 4 本
 - ・丸木ねじ 4 本
 - ・後ふた 1 枚
 - ・後ふた 1 枚
 - ・天吊り金具 4 個
 - ・取付ねじ (M4 × 10・カラ付) 2 本
 - ・取付ねじ (M5 × 10) 8 本
 - ・ローレットねじ (M4 × 15) 4 本
 - キット内容 (H400 仕様)
 - ・後ふた 1 枚
 - ・天吊り金具 4 個
 - ・取付ねじ (M4 × 10・カラ付) 2 本
 - ・取付ねじ (M5 × 10) 8 本
 - ・ローレットねじ (M4 × 15) 4 本

取り付けかた

1. 付属品の確認

注意

- 取り付けの際は、必ず厚手の手袋をすること。鋼板の切り口や角だけが露出するおそれがあります。

付属品を確認します。梱包箱から付属品を取り出し、上項の付属品一覧により不足がないか確認します。

お願ひ
取付作業の際は、キズ・破損のないように十分注意してください。

2. 本体の準備

お願ひ

- 床面を傷つけないよう、保護シート等を敷いた上で作業をおこなってください。（図 2-1）
- 製品取り付けの際は、右図に示す部分を絶対に持たないでください。ゆがみ、変形の原因になります。（図 2-1）

1 整流板をはずします。
整流板の前面を固定している左右のストッパーを押し込みながら前面をゆっくり開き、ロックをはずします。（図 2-2）

2 整流板をさらに開き、整流板吊り金具を取りはずします。（図 2-3）

3 スロットフィルタをはずします。（図 2-4）
スロットフィルタのつっpeg を持ち、スロットフィルタを手で支えながら少し押し込み、手前へ引き出します。

3. 排気方向の決定

警告

- メタルス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けます。漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります。
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的な資格者が工事をおこなうこと。火災などの原因になります。
- 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと。火災などの原因になります。詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください。

注意

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）。感電および故障の原因になります。
- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けられないこと。火災・故障の原因になります。

4. 排気用部品の準備

※ 「1. 付属品の確認」の項で取り出した排気口を用意してください。

1 製品寸法図を参照し、事前に管工事業者（法的な資格者）へ壁穴の開口を依頼してください。また、コンセントの位置を確認してください。

2 φ 150 のステンレスダクト、またはスパイラルダクトを図のようにレンジフードの上部に突き出すようにセットして、周囲を仕上げます。（コンクリート、タイル、土壁の場合）

■ 上方排気の場合

■ 側方排気および後方排気の場合（別売の L 型ダクトを使用する場合）

側方排気 左側方排気ダクト 右側方排気ダクト 後方排気

1 排気口に付属品のソフトテープを貼り付け、本体に取り付けます。本体についているねじ 2 本を取りはずした後、付属品の排気口を取り付けます。取付方向は右図を参照してください。

5. 本体の取り付け

注意

- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと。落下により、けがをするおそれがあります。
- 部品の取り付けは確実におこなうこと。落下によりけがをするおそれがあります。

1 だるま穴用座付ねじをねじ込みます。（図 5-1）
製品寸法図を参照し、だるま穴位置（左右各 1ヶ所）に付属品の座付ねじ (φ 5.1 × 45) を壁面とのすまき 5mm まで締め付けます。

2 本体を引っ掛け固定します。（図 5-2）
取り付けした座付ねじ 2 本に本体のだるま穴を引っ掛けます。

お願ひ
上方排気の場合は、ダクトに排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。

3 座付ねじ 4 本でさらに固定します。（図 5-3）
だるま穴の上下にある 4ヶ所の φ 8 穴に座付ねじ (φ 5.1 × 45) 4 本を本体側面からしっかりと締め付けて固定します。

6. ダクトと排気用部品の接続

お願ひ

ドリリングタッピングねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじが当たらないよう図を参照してドリリングタッピングねじ使用範囲以内に固定してください。（図 6-1）

■ 上方排気の場合
ダクトと排気口の接続部に漏風防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。（図 6-2）

■ 側方排気および後方排気の場合（別売の L 型ダクトを使用する場合）

1 排気口を取り付けます。（図 6-3）
本体排気口取付位置に取り付けている取付ねじ 2 本をはずした後、L 型ダクトを本体上部の差込口に差し込みながら、排気口をダクトに挿入し、はずした取付ねじ 2 本で取り付けます。

2 漏風防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。（図 6-3）

■ 排気口設置面の漏風確認のお願ひ（図 6-4）
排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとすると、排気口と排気口の設置面（製品天面等）が変形し、漏風が発生してしまつ場合があります。漏風確認のために、ダクトと接続後は試運転（強運転）をおこなってください。漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等（現場調達品）で漏風防止処置をおこなってください。

7. 電気配線

警告

- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと。発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります。
- 交流 100V 以外では使用しないこと。発火・感電の原因になります。
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的な資格者が工事をおこなうこと。誤った配線工事は感電や火災の原因になります。
- アースを確実に取り付けること。故障や漏電のときに感電するおそれがあります。アースの取り付けは販売店にご相談ください。

分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

お願ひ

- 電源専用のコンセント（2 極差込接続器 15A、125V）およびブレーカーを設けてください。
- 「10. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。
- コンセントは電源コードの長さを考慮し、右図の斜線範囲内に設置してください。（図 7-1）
- 必ずアース（D 種接地工事）をしてください。

裏面に続きます。

取り付けかた (つづき)

8. 横幕板・前ふたの取り付け

■横幕板 (別売品) を使用する場合 (図 8-1)

1 ハーフカット部を打ち抜きます。本体天面の四隅にあるハーフカット部をプラスドライバーの先端等で上から打ち抜きます。

2 横幕板を取り付けます。
1) 本体天面に横幕板 2 枚を図のように置き、横幕板に付属の取付ねじ各 2 本で横幕板を本体内側から固定します。(打ち抜いた穴を使用します。)

2) 横幕板に付属の丸木ねじ各 1 本で横幕板を壁面に固定します。

3 前ふたを取り付けます。(図 8-2)

1) 前ふた裏面のツメを本体の長穴に差し込み、前ふたを手で押さえずながら上側 2ヶ所を付属品のローレットねじ 2本で固定します。

前ふた高さ 600mm の場合のみ
前ふた上部両端にあるツメを横幕板の角穴に差し込みながら取り付けてください。取り付け後、両側とも確実に差し込まれたことを確認してください。

2) 下側 2ヶ所を付属品の取付ねじ (M4 × 10) 2本をそれぞれ本体内側から固定します。

2 整流板を取り付けます。(図 9-2)

1) 整流板引掛け金具をフードの整流板吊り金具に引っ掛けます。

2) 前蓋をゆっくり持ち上げて左右のストッパーがロックするまで押し上げます。

3) 整流板を軽く上下に動かしてみても確実に取り付けられたことを確認します。

●お願い
整流板の固定は確実におこなってください。ロックが不十分ですと整流板の落下の原因になりますので、取り付け後、再確認してください。

9. 試運転の準備

1 スロットフィルタを取り付けます。(図 9-1)

スロットフィルタを手で支えて後側を本体の板ばねに押し当てながら、前側を本体の溝部分に差し込みます。

10. 試運転

⚠️ 注意

● 運転中は指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります

● 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。

● 最終設置した状態で試運転してください。

● 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。

● 異常な騒音、振動がないことを確認してください。

● 屋外の排気出口から排気され、異常音がないことを確認してください。

● 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

11. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取扱説明書を必ずお客様にお渡しください。

天井への取り付けかた (別売品のセンターキットが必要)

「安全上のご注意」、「取り付け上のお願いは」は表面をご覧ください。

取り付け前の調査と準備

⚠️ 警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- レンジフードは、薄板の金属部 (壁内ラス網など) と接触しないよう取り付けます
漏電した場合、発火するおそれがあります
- 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用し可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は建築基準法 (同施行令) および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります

⚠️ 注意

- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります
- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります
取付材が強いと振動音することがあります

取付要領図 (単位: mm)

製品幅	天井開口寸法	前後	左右
450	400	400	400
600	400	400	550

● 本書では製品高さ 600mm の場合を例に説明しています。

【製品高さ 400mm の場合】
フード取付開口部横に点検口を設け、ダクト接続および吊りボルトによる取り付けを確実におこなってください。

1 天井面への穴あけ
取付詳細図-1 および右表を参照し、事前に管工事業者 (法的有資格者) へ天井面へのダクト穴の開口を依頼してください。
また、天井開口部近くの補強材または野縁等に専用コンソートを設置してください。

2 排気ダクトの取り出し
取付詳細図-1 (取付詳細図-1) の 150 のスライラダクトを、右図の位置に取り出してください。

取付詳細図-1 (単位: mm)

3 吊りボルトの取り付け (取付詳細図-2)

M10 の吊りボルトを 4 本、天井内側梁などの適当な部分に固定します。固定ピッチは下表の通りです。
※ 吊りボルトは、M10 を用いてください。

製品幅	固定ピッチ	
	前後	左右
450	350	350
600	350	500

●お願い
M10 吊りボルト (4 本)、M10 ワッシャー (4 枚) およびナット (4 個) は取付作業員にて手配してください。

4 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面から製品の下端まで 80cm です。
※ 火災予防条例では、ガラスフィルターの下端が調理機器の真上 80cm 以上必要となっています。

5 電源コンセント・ブレーカー
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。
(交流・単相 100V)
コンセントは、JIS C 8303 2 極差込接続器 15A 125V をご使用ください。

●お願い
必ずアース (D 種接地工事) をしてください。
レンジフードが誤動作することがあります。

取付詳細図-2 (単位: mm)

●お願い
M10 吊りボルト (4 本)、M10 ワッシャー (4 枚) およびナット (4 個) は取付作業員にて手配してください。

● 製品高さ 600mm の場合
● 製品高さ 400mm の場合

取り付けかた

1. 付属品の確認

⚠️ 注意

- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

付属品を確認します。
梱包箱から付属品および別売品を取り出し、表面の付属品一覧により不足がないか確認します。

●お願い
取付作業の際は、キズ・破損のないように十分注意してください。

2. 取付準備

⚠️ 警告

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造管物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けすること
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は、建築基準法 (同施行令) および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
- 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用し可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください

⚠️ 注意

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと
(浴室用換気扇をお使いください。)
- 感電および故障の原因になります
- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります

4 スロットフィルタをはずします。(図 2-6)

スロットフィルタのつてをもち、スロットフィルタを手で支えながら少し押し込み、手前に引き出します。

3. 本体の取り付け

⚠️ 注意

- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下により、けがをするおそれがあります
- 部屋の取り付けは確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります

1 レンジフードの固定位置を決めます。(図 3-1)

吊りボルトにマジックペンなどで、天井から 140mm の位置にマーカをつけてます。

2 ナットとワッシャーを吊りボルトにねじ込みます。(図 3-2)

M10 のナットとワッシャー (取付作業員の手配) を吊りボルトのマーカ位置までねじ込みます。

●お願い
取付完了時、調理機器上面から本体下面まで 800mm にならない場合は調節してください。

3 本体を吊りボルトに固定します。(図 3-3)

1) 本体を持ち上げて 4ヶ所の吊り金具に吊りボルトを差し込み、吊り金具を押し込み、吊り金具を吊りボルトの下側から M10 のワッシャーとナット (取付作業員の手配) でしっかりと締め付けます。

2) アース (D 種接地工事) を取ります。

3) 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグを天井裏などに設置したコンセントに差し込みます。

5 電気配線

⚠️ 警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- 交流 100V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- アースを確実に取り付けすること
感電や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください

6 後ふたを固定します。(図 6-5)

1) 後ふたを上方に持ち上げながら位置調整をおこなひ、かぎ穴の上方にある 2ヶ所の穴に、ローレットねじ (M4 × 15) 2本を本体内側からねじ込みます。

後ふた高さ 600mm の場合のみ
後ふた上部両端にあるツメを横幕板の角穴に差し込みながら取り付けてください。取り付け後、両側とも確実に差し込まれたことを確認してください。

2) ローレットねじ 4ヶ所をきつ締め付けて後ふたを固定します。

7 前ふたを取り付けます。(図 6-6)

1) 前ふた裏面のツメを本体の長穴に差し込み、前ふたを手で押さえずながら上側 2ヶ所を付属品のローレットねじ 2本で固定します。

前ふた高さ 600mm の場合のみ
前ふた上部両端にあるツメを横幕板の角穴に差し込みながら取り付けてください。取り付け後、両側とも確実に差し込まれたことを確認してください。

2) 下側 2ヶ所を付属品の取付ねじ (M4 × 10) 2本をそれぞれ本体内側から固定します。

7. 試運転の準備

1 スロットフィルタを取り付けます。(図 9-1)

スロットフィルタを手で支えて後側を本体の板ばねに押し当てながら、前側を本体の溝部分に差し込みます。

2 整流板を取り付けます。(図 9-2)

1) 整流板引掛け金具をフードの整流板吊り金具に引っ掛けます。

2) 前蓋をゆっくり持ち上げて左右のストッパーがロックするまで押し上げます。

3) 整流板を軽く上下に動かしてみても確実に取り付けられたことを確認します。

●お願い
整流板の固定は確実におこなってください。ロックが不十分ですと整流板の落下の原因になりますので、取り付け後、再確認してください。

8. 試運転

⚠️ 注意

● 運転中は指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります

● 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。

● 最終設置した状態で試運転してください。

● 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。

● 異常な騒音、振動がないことを確認してください。

● 屋外の排気出口から排気され、異常音がないことを確認してください。

● 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

9. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取扱説明書を必ずお客様にお渡しください。

4 ダクトと排気用部品の接続

●お願い
ドリリングタッピングねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたりないように図を参照してドリリングタッピングねじ使用範囲以内に固定してください。(図 4-1)

風漏れ防止のテーピング (アルミテープ) をおこなひます。(図 4-2)

ダクトの接合部へ風漏れ防止のテーピング (アルミテープ) をおこなひてください。

6. 横幕板・後ふた・前ふたの取り付け

● 製品高さ 400mm の場合、横幕板の取り付けはできません。

1 ハーフカット部を打ち抜きます。(図 6-1)

本体天面の四隅にあるハーフカット部をプラスドライバーの先端等で上から打ち抜きます。

2 横幕板を取り付けます。(図 6-1)

1) 本体天面に横幕板 2 枚を図のように置き、横幕板に付属の取付ねじ (M4 × 10・カラーなし) 各 2 本で横幕板を本体内側から固定します。(打ち抜いた穴を使用します。)

2) 横幕板に付属の丸木ねじ各 2 本で横幕板を天井に固定します。

3 後ふたに取付ねじを取り付けます。(図 6-2)

後ふた裏面の 2ヶ所の穴に、取付ねじ (M4 × 10・カラー付) 各 1 本をねじ込みます。(後ふたとの間に 2mm 程度のすきまが開きます。)

4 後ふたを本体に引っ掛けます。(図 6-3)

前手順で後ふたに取り付けたねじを、本体背面にあるかぎ穴に引っ掛けます。

5 後ふた下部を固定します。(図 6-4)

後ふた下部にある 2ヶ所の穴に、ローレットねじ (M4 × 15) 2本を本体内側からねじ込みます。

●お願い
後工程で後ふたの位置調整を行いますので、ローレットねじはきつ締めすぎないでください。